第１５４回　青森県立図書館協議会　会議結果

１　日時・場所

平成２７年１１月５日（木）　１３：３０～１５：１０

青森市荒川字藤戸１１９－７　青森県立図書館　４階　研修室

２　出席者

《協議会委員》　敬称略　８名

苫米地　庸子　　手嶋　久敦　　前田　敏子　　村林　　徹

工藤　眞一郎　　生島　美和　　小笠原　秀樹　　佐々木　あさ子

《図書館》

佐藤　　宰　（図書館長）　外７名

３　会議の概要

（１）図書館長あいさつ

（２）委員及び県立図書館・近代文学館職員の紹介

（３）議長選出

（４）案件

①　平成２６年度組織目標に対する評価結果について（資料1）

②　平成２７年度主要事業について　（資料2）

《お問い合わせ先》　青森県立図書館　企画支援課　電話　０１７－７３９－４２１１

委員の主な意見・要望等

議題（１）

委員

学校図書館は子どもたちが身近に図書館と関わる場であるため、質の良い図書館であることが求められる。しかし図書館の知識を持たない教員が担当する場合が多いのが実態としてある。

県が行っている学校図書館アシスト事業プラスは学校現場としてはありがたい事業であり、要望は増えていることから、継続・強化していただきたい。

市町村の図書館が手薄になっている中、県がこの事業を実施するのは意義がある。資料の収集や整理だけではなく、環境を整える人材を育てることにも繋がっている。

現場からは事業を活用して良かったとの声や、困っているので活用しようといった声が聞かれるので、今後も要望は増えていくと考えている。

図書館

学校図書館アシスト事業プラスは要望が増加傾向にあり、職員の対応も限界に近付いているが、今年度は要望に対してはほぼ対応できている状況にある。

要望の増加件数にもよるが、市町村図書館の協力も得ながらできるだけ多くの要望に応えていきたいと考えている。

委員

オンライン貸出を利用しているが、いつ依頼すればいつ手元（地元の図書館）に届くのかがわかりづらい。利用者としては期限に間に合うよう返却したいが、その辺の仕組みがわからないため不安に感じる。

子どもの読書活動推進大会（つがる市）においておこなわれた関連図書の展示・貸出（行政支援）は役立ち、大変ありがたいので継続して欲しい。

本が好きで図書館に来る子が居る一方、足を運ばない子が居る。図書館に来ると展示や各種コーナーを設け、いろんな情報が手に入るということを理解してもらうような広報が必要ではないか。

図書館

ホームページに掲載はしているが、更にわかりやすくするよう工夫したい。

委員

本県の市町村図書館の状況をどのように認識しているか。

図書館

資料・人材・施設ともにかなり厳しい状況にあると認識している。

図書館設置率は全国最下位、図書購入費は殆どない自治体も複数ある。

図書館専任スタッフが居ない。臨時職員でも専任のスタッフが居れば良い方である。

施設面も学校図書館とあまり変わらないようなところがある。

それらをカバーするため、近隣の図書館や県立図書館から足りないノウハウを得ながら何とかしようと考えないといけない状況にあるが、その情報すら持ち合わせていないという事がわかった。

県立図書館がやることは、まず県立図書館の資料や職員を使ってもらうようにすることであり、その次に市町村図書館自身が何をしなければならないのかを考えてもらうことである。

学校図書館も同様で、学校図書館図書標準の充足率が低いといわれているが、率を高めるために古い本を捨てずに残している学校がある。古い本は子どもたちにそっぽを向かれる原因となる。まずそれらの古い本を捨ててもらい、市町村図書館に支援を頼む。さらには県立図書館に頼むといったやり方にしないといけないということを図書館職員は認識する必要がある。

そんな中、県内に、学校図書館とネットワークを結ぼうという自治体がある。この取り組みを紹介し県内全体に広げていきたい。

委員

本県の市町村図書館は、ただ貸出が中心であり、どう蔵書構築をし、情報発信していくのかという点が不足している。

図書館がどんなポテンシャルを持っているのかということを知らない。

他県の図書館では試行錯誤しながら住民に使える場所であることをアピールしている。

住民側から図書館は大事だということをムーブメントをおこしていくような仕掛けが必要ではないか。

文学館の企画展示のタイミングで図書館の中で関連ブースを設けるなどの機関の連携はあるか。

図書館

戦後の文学に関する企画展に合わせ、図書館にある関連資料の展示を参考郷土コーナーに設けている。ほかにも文学館と連携し、図書館にある資料も紹介した事例はある。

図書館

意識的にコラボしようとしているが、来館者に響いているかといえばそうでもなく、もう少し工夫が必要だと感じている。

議題（２）

委員

子どもの活字離れが進んでいる。

学校図書館の支援を強化して欲しい。県立図書館の職員が学校へ出向いた際には児童と直接触れ合う場面を作るなどし、指導して欲しい。

委員

図書館の存在意義は「知の拠点」であるということではないか。

指定管理の導入が取りざたされている図書館が多くなっている。その仕組みにスポットが当たる場面が多いが、住民にとって図書館側が多様なことに対応しているのかどうかということが重要なことではないか。

委員

県立図書館に期待する部分は多いが、職員は足りているのか。他県と比較してどういう状況なのか。

また、専門的知識を持つ司書の配置状況はどうか。

図書館

職員は図書館に限らず各部署もギリギリの人員で構成されている状況にあるが、もう少し職員数が増えて欲しいというのが本音である。

他県も同様であり、本県が極端に少ないということではない。

その中で、全てをこなすことは難しくなっているため、県民が求めていることを見定めながら仕事にメリハリを付ける必要があると考えている。

図書館は司書が居ないと動かないものだと感じている。経験を重ねた司書のノウハウを持って利用者に対応する必要性を強く感じる。